

■孝明天皇 121代天皇。幕末、盛んに勅下し朝廷権威を回復、徹底した攘夷指向で公武合体を支持した。

こうめいてんのう

富嶽三十六景1831= 仁孝天皇の第4皇子として誕生。母は贈左大臣正親町実光の女稚子(新待資門院)。

滑稽+人情本 1835= 4歳：儲君治定，親王宣下，

大塩平八郎乱1837= 6歳：

勅進帳初演・1840= 9歳：立太子の儀があり，

阿部正弘首座1845=14歳：

孝明天皇・・・1846=15歳：父天皇の崩御のあとをうけて踐昨の儀をあげ，

・・・・・・1847=16歳：即位礼をあげた。

北斎没・・・1849=18歳：

その在位の時代は幕末激動期にあたり，従来政治の圏外にあった朝廷が遠かに政権の中心に進出し，天皇は多難な国事にあたらなければならなかった。

ペリー来航・1853=22歳：米艦の浦賀来航を見るに及び，鎖国体制は破綻し，

五ヶ国条約・1858=27歳：\*幕府は日米修好通商条約調印の勅許を奏請するに至った。天皇は当時の大多数の公家衆と同様に開国は神州を汚すものと憂慮したので勅許を見合わせ，調印の可否は諸大名の衆議をもってすべきことを命じた。ところが幕府では，勅許を待たずに調印したのみならず，さらに蘭・露・英の諸国とも条約を締結するという事態になったため，天皇は激怒して譲位を決意し，また勅諭を幕府および水戸藩に下して，国事を誤ることのないよう再議を求め，叡旨の貫徹を図った。時に將軍継嗣問題をめぐる紛争もこれにからまって国論が沸騰したが，幕府は，調印は武備充実までの一時便宜の措置であると釈明に努める一方，反対派の抑圧を始めため，天皇は不満ながらその釈明をいれた。

桜田門外変・1860=29歳：\*大老井伊直弼が暗殺されると，幕府は低下した勢威を回復するため公武の融和を図ることを策し，公武合体の証として，皇妹和宮の將軍徳川家茂への婚嫁を奏請した。天皇は和宮の不同意を知って，この請をしりぞけたが，再三の懇請を拒否しがたく，公武一和をもって武備の充実を図り，鎖国の旧制に復するとの幕府の誓約をとり，ついにこれを勅許した。この婚嫁を契機として朝廷は幕府に対して優位に立ち，公武合体の施策を進めるため薩長二藩等に国事周旋を命じたが，その間朝廷内外の攘夷派の勢力は長州藩の支援をうけてすこぶる強大となった。

8月18日政変 1863=32歳：\*天皇は攘夷の成功を祈願するため，賀茂社・石清水社に行幸，長州藩によって下関海峡通航の外船の砲撃が決行された。かくて勢いにのった攘夷派の廷臣・志士は攘夷親征を企図して大和行幸の廟議を定めるに至ったが，天皇は攘夷即行を無謀の挙とするとともに，討幕へと突き進む情勢を深く憂い，密かに中川宮尊融親王(朝彦親王)をしてその阻止を謀らしめた。その結果，朝廷は大和行幸を中止し，薩摩・会津等の藩兵をもって宮門を固めた上，激派廷臣の参朝停止と長州藩の宮門警固罷免を令した。この政変(8月18日の政変)を発端として，政局は禁門の変・長州征討と目まぐるしく推移し，天皇は依然公武合体・鎖国攘夷の基本方針を堅持した。しかし内外の情勢は次第に天皇の素志と反対の方向に進み，

薩摩藩士密航1865=34歳：英・米・仏・蘭4国公使共同の要求によって，ついに条約の勅許を見，

薩長同盟・・・1866=35歳：\*討幕を目的として薩長両藩の盟約が成り，ついで第二次長州征討が失敗すると，政局は討幕に向けて一路進展する様相を示し始めたのである。この時にあたって天皇はたまたま痘瘡に罹って癒えず，崩御した。